

「311 感恩会」と「多彩日本」

皆川 榮治

2011年の東日本大震災の激しさは日本国中に強烈な印象を残しました。台湾にいる私も、丁度日本から友人が台湾に来られていた日で、車中で家内から電話で知らされ驚いたものです。早速近くのレストランでテレビを見ましたが、どこも日本の地震の報道であふれていました。その友人の思い出と共にいまだに忘れられない思い出です。

それから6年が経ち、東北の傷も少しずつ癒されているものと信じていますが、台湾でもいまだに毎年3月11日になると、日本人会と日本台湾交流協会が共催で「311 東日本大震災」の記念行事を行っています。今年は「311 東日本大震災6周年追悼感恩会」の名称でしたが、これはこの地震にあたって世界各国から多くの義捐金が寄せられ、中でも台湾が200億円を超える世界で一番多くの義捐金を日本に送って下さったことへの感謝の気持ちを表すものでした。

昨年がちょうど節目の5年にあたり、それで感恩会(日本語では感謝祭に当たる)は止めしようとの話も出たのですが、今年もやはり継続することになりました。これも日本と台湾の官民間わなない深い関係の強さがその背景にあるものと思います。日本からは日本台湾交流協会代表並びに日本人会代表が挨拶され、台湾からの亜東関係協会会長の挨拶に引き続き参会者全員による献花が行われました。参列されたのは100人ほどでしたが、一同台湾への感謝の思いを強くした集いでした。この地震を通して示して下さった台湾からの温かい思いやりの心を決して忘れない、との思いが伝わる感謝祭でした。

また、3月25日(土)、26日(日)の両日、台湾に居住する日本人にとっては珍しいことがありました。それは「多彩日本」(バラエティ日本)という行事ですが、華山1914 創意産業園區(台北駅近くの市内中心地にあります)において日本台湾交流協会主催の催しが行われたものです。

主催者名から見て日本政府の主催であることは直ぐに分かりますが、日本各地の魅力を台湾に伝えようとの目的で行なわれたもので、今回は特に東北及び九州を中心とした紹介が数多く展示されたほか、日本酒の試飲会が人気を呼び、大変盛り上がりのある行事になりました。と言うのも初日には日本台湾交流協会代表や亜東関係協会代表が挨拶に立たれたのはもちろん、目立ったのはオープニングセレモニーに日本から赤間二郎総務副大臣が出席されたことです。

1972年の日台断交以来、政府間交渉がなく交流協会と亜東関係協会と言う形式上民間団体間の交渉に委ねられてきた日台関係ですから、両国の外交関係はせいぜい課長級交渉しかありませんでした。この程副大臣と言う準閣僚級が、それも公務で台湾を訪れたのですから、過去を知る者にとっては晴天の霹靂でしたが、結果は日台から多くの報道陣を集めました。日台両政府間の間柄や米新大統領の日台への関わりに変化を感じるできごとでした。